

特別賞

森や木の働き

麻布小学校 三木 勝輝

森や木は大切だといいますが、なぜ大切なのでしょう。ぼくはこのことについて、学校の学習発表会で調べたことを元に、考えてみたいと思います。

まず始めに、地球温暖化の原因物質、二酸化炭素（CO₂）を吸ってくれることではないでしょうか。今、先進国、発展途上国、あわせて問題にしていること、それが地球温暖化です。しかも、酸素（O₂）も放出しているので、かつては、人（動物）さらに、木（植物）の呼吸とつりあっていました。しかし、物を作るときに大量の二酸化炭素が出て、さらに木は人の利用のために伐採されています。こう考えていると木はパブリック（公共）のものではないかと考えられずにはいられません。地球に生きる者、すべてが必要にしているのではないか、ということですが、

次に、動植物を守る働きがあるからではないでしょうか。森は動植物の住みかになるからです。もし、一種が絶滅すると生態系がくずれてしまいます。つまり森は環境をまもることで生物の絶滅をふせぎ、住みかになることでも、生物を守っているということになります。

このように、森、並びに木は、色々な環境の保全に役立っています。しかし、森林は今、目先の利益を優先に、人によって伐採されています。未来の人間の役に立つ、地球を守るということはわかっているのに、なぜ、伐採されつづけているのでしょうか。それは、未来より、目先の利益のほうが、価値が高いからです。例えばほしい物があつた、今すぐほしいというとき、今か一週間後のおこづかいであるときならばほとんどの人が今を選ぶでしょう。だったら、伐採してもいいのか、そんなことはないと思います。ある学者は、原始時代の生活にもどればいいと言いますが、それは無理だと思います。一度手に入れたテクノロジーを手放すことは人間はしないと思います。そのために今も開発を続けています。ぼくは開発は賛成ですが、過度の伐採は否定します。（この開発は、機械を便利にすること）そのためにぼくは開発をし、動植物を守るシステムを考えていかなければならないと思いました。